

みやぎ復興プレス

「みやぎ復興プレス」では、東日本大震災により被災された方をはじめとした復興に関わる多くの方々に、宮城の復興状況やイベント、被災者支援など、復興に関する主な情報をお届けします。メールマガジンやWebサイトとも連動し、多くの皆さまのお手元に情報をお届けしますので、よろしくお祈りします。

目次

- p1 トピックス：「東北における水素社会先駆けの地」を目指して！
- p2 みやぎ“復興人”：一般社団法人 ReRoots、応援職員紹介
- p3 月刊ココロプレス
- p4 県からのお知らせ、復興イベント情報



メールマガジンによる配信も行っています！ 配信を希望される方は、1お名前、2お住まいの都道府県、3ご所属（個人の方の場合は不要）をメール本文に記載して fukusuim@pref.miyagi.jp まで送信願います！

トピックス



「東北における水素社会先駆けの地」を目指して！

創造的復興に向けて、水素エネルギーの利活用を推進

水素は、水などの形で地球上に無尽蔵に存在し、利用段階では、水しか排出しないクリーンエネルギーとして、その利活用拡大に大きな期待が寄せられています。身近なところでは、家庭用燃料電池（エネファーム）が普及段階にあるほか、燃料電池自動車（FCV）が一般販売されるなど、広がりを見せています。

東日本大震災で甚大な被害を受けた本県では、災害対応能力の強化、環境負荷の低減、経済波及効果が期待できる水素エネルギーの普及を「創造的復興」の一つに位置付け、昨年6月に「みやぎ水素エネルギー利活用推進ビジョン」を策定し、具体的な取り組みを進めています。

＜宮城県の取り組みの方向性＞

災害に強いまちづくり

- ・公共交通機関等のFCVや燃料電池バス（FCバス）を災害時等非常時に避難所等で電源として活用
- ・停電時に電源・熱源として機能するエネファームの普及

環境負荷の少ない地域社会づくり

- ・FCVやFCバスの普及による二酸化炭素排出量の削減
- ・エネファームや業務・産業用燃料電池の普及による省エネルギー化
- ・太陽光発電等を活用した水素の製造・利活用によってエネルギーの自給率を高める

水素エネルギー関連産業の育成・活性化

- ・水素関連企業の誘致・育成支援による県内産業の活性化
- ・産学官連携の研究・開発による水素エネルギー利活用の拡大

県では、皆さまが水素エネルギーを身近に感じていただけるよう、FCVを実際に「見て」「触れて」「乗って」いただく機会を数多く設け、水素エネルギーの普及に努めてまいります。

FCVとスマート水素ステーションを導入します

今年3月、県では、東北における水素社会の先駆けとして、「FCV」を3台と「スマート水素ステーション」を導入します。

FCVは、水素と空気中の酸素の化学反応により生じた電気でモーターを回して走るため、二酸化炭素や大気汚染物質を排出しません。また、FCVには外部の機器に電力を供給する機能もあるため、災害時の非常用電源として活用することもできます。



MIRAI
(出典：トヨタ自動車(株)HP)

CLARITY FUEL CELL
(出典：本田技研工業(株)HP)



スマート水素ステーションは、県保健環境センター（仙台市宮城野区）に設置されます。太陽光発電を利用して水を電気分解し、水素を製造します。1日あたり、FCVが約150キロメートル走行するために必要な水素を製造し、約1,900キロメートル走行分の水素を貯蔵することができます。スマート水素ステーション
(出典：本田技研工業(株)HP)





今月の復興人は、津波被害を受けた仙台市沿岸の若林区で、学生のボランティア達と共に農業・農村の復興に向けて活動する「一般社団法人 ReRoots (リルーツ)」代表の広瀬剛史さんにお話を伺いました。

●活動を始めたきっかけを教えてください。

震災当日、私は仙台城に近い避難所にいました。この辺りは内陸のため、被害は小さかったのですが、電気や水道が断たれたこともあり、周辺の住民や大学生など多くの方が避難していて、学生達を中心となり物資の配給や炊き出しなどをしていました。徐々に学生達と会話も交わすようになり、3月末頃には、空いている時間に一緒に津波被災地のボランティアに参加するようになったのです。

沿岸の被害は内陸の比ではなく、その光景を目の当たりにして、皆「何かしなければ」と強く感じるようになったのだと思います。そこで、復旧・復興に向けて一緒に現在の活動を行うこととなったのですが、被災者が生活再建を果たすまでには中長期的な支援が必要だと考え、学生が無理のない範囲で支援を継続できる地域を検討しました。そして、津波で壊滅的な被害を受け、さまざまな問題を抱える仙台市若林区の農業に着目し、「ReRoots」として活動を開始しました。



●どのような取り組みを行っているか教えてください。

仙台市の沿岸部は農業が盛んな地域でしたが、津波で農地や家屋がごとごとく流失してしまったので、生業である農業の復旧・復興が不可欠でした。

震災後、まず、がれきの撤去など農地の復旧支援を行いました。延べ3万人近くのボランティアにも協力していただき、平成26年3月には復旧作業が完了しました。

その後、農業・農村の復興に向けて、「農業の再生・コミュニティの再生・景観の再生」をテーマに、約60人の学生ボランティアがそれぞれのプロジェクトチームをつくり活動を行っています。具体的な例として、近隣農家や自分達が作った野菜を災害公営住宅等へ移動販売するなどして、地元野菜の魅力を伝えています。また、若林区が主催するまちづくりワークショップに地元の活動団体として参加し、地域おこしについて考えています。

学生が主体のため、活動を長く続けられるような環境を整えるとともに、学生達が自主的に考え、地域に溶け込みながら真剣に農業に取り組める仕組みづくりにも努めています。



●今後の抱負をお聞かせください。

今後は、農業体験等を通じて、一人でも多くの方が若林区の魅力に気付いてもらえるような活動をしていきたいです。また、ここで活動している学生に農業の本当の素晴らしさに気付いてもらいたい、そして、農業を職業として選べるような環境整備も進めていきたいと考えています。

☎ 一般社団法人 ReRoots
☎ 022-762-8211
URL: <http://reroots.nomaki.jp/>

全国の皆さま ご支援ありがとうございます！

応援職員紹介コーナー Vol.40



氏名 徳嶺 竜二 (トクミネ リュウジ)
派遣元 沖縄県
所属 仙台土木事務所

ハイサイ！沖縄方言をひとつ。「なんくるないさ」とは「挫けずに正しい道を歩むべく努力すれば、いつか良い日が来る」が本来の意味です。沖縄のおじいおばあが努力している人に向けて発する言葉です。とても意味深いので是非検索を。宮城県では、山元町の用地取得業務を担当しております。震災直後なにもできなかった分、今できることを私なりに考え、邁進する所存です。



氏名 飯島 悠甲 (イイジマ ユウキ)
派遣元 岐阜県
所属 仙台土木事務所

海のない岐阜県から海岸の復旧のため派遣となりました。文化遺産の白川郷、夏の風物詩である鞆飼等見所たくさん、の岐阜にも機会があれば是非お立ち寄り下さい！土木工事では、つくった物が形として残るので、「次の世代のために良い物を残す」という使命感を持って仕事をしています。この意味で宮城県の復旧を見ていると不安な部分もありますが、復興のために今できること全力で進めます！



氏名 倉田 修平 (クラ シュウヘイ)
派遣元 三重県
所属 仙台地方振興事務所水産漁港部

三重県から派遣され1年と10カ月が過ぎました。主に漁港施設の災害復旧事業を担当しています。施設等が完成し、漁業者の方々に利用されているのを見ると、今までにないほどのやりがいを感じます。

早期設計、早期着工など、スピード感を持って着実に進捗を図っていきたいです。微力ですが、宮城県の復興に向けて最後まで頑張りたいと思います。



氏名 三代 和樹 (ミロ カズキ)
派遣元 大分県
所属 仙台地方振興事務所水産漁港部

味力も満載な「おんせん県おおいた」から派遣されました。4月から水産業共同利用施設事業等を担当しています。赴任した4月には何もなかった土地が嵩上げされ、新たに道路や建物が建つ姿を見て復興が進んでいることを実感しています。また、初めて生きたサケやタラを見ることができました(九州では切り身でしか見たことないので)。任期も残りわずかですが、復興に貢献できるよう頑張ります。

「ココロプレス」は宮城県の復興を応援するブログです。

宮城の復興状況や生活再建に懸命に取り組む人々の姿、全国から寄せられる力強く温かい応援の様子などを随時発信しています。

おかげさまで1800記事・
160万アクセスを超えました。

宮城の
復興情報を
募集中です!

復旧復興のPRや支援の取り組みなど、伝えたい情報を、下記メールアドレスまでご連絡ください。

fukusuip@pref.miyagi.jp

必要事項: 1取材対象 / 2取材希望日 / 3取材場所 / 4御担当者氏名 / 5電話番号

※内容や日程によってはご希望にそえない場合もございますので、ご了承ください。



ココロプレス 検索

2015年12月18日 金曜日掲載

保健と医療と福祉のまちへ! 「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」落成 (南三陸町)

http://kokoropress.blogspot.jp/2015/12/blog-post_18.html

病院と地域の保健や福祉など行政サービスの拠点が一体となった「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」が誕生しました。約56億円もの建設費の多くは台湾やイスラエルなど海外からの支援によるもの。「福祉のまちづくり」の始まりです。



2015年12月23日 水曜日掲載

ふるさと再生 ～自力再建地区の取り組み (名取市)

http://kokoropress.blogspot.jp/2015/12/blog-post_23.html

名取市小塚原北地区。震災直後は、支援物資や食料が不足しましたが、住民同士支え合って乗り切りました。「復興のためにガンバッペ!」と地区住民が手を取り合って取り組み、ふるさとの再生が少しずつ進んでいます。



2016年1月8日 金曜日掲載

仮設商店街 最後の初売り風景 (気仙沼市)

http://kokoropress.blogspot.jp/2016/01/blog-post_8.html

平成28年10月に閉鎖となる仮設商店街で、最後の初売りが行われました。「最後までお客さんの笑顔のために働きたい」と女性経営者。「復興のため商人の皆さんにはがんばってほしい」と買い物客。当日は、地元の方や観光客で賑わいました。



2016年1月14日 木曜日掲載

“食”をテーマに震災を語ろう! 「3月12日はじまりのごはん」(仙台市)

<http://kokoropress.blogspot.jp/2016/01/312.html>

震災が起こったあの時、初めて食べたものは何か?それはいつどこで?思い出すのが辛い、語りにくいテーマを語りやすくするために、食を通して震災体験を語り合い、記憶を保存継承していくというイベントが開かれました。



2016年1月16日 土曜日掲載

「高校生百貨店」 ～石巻から高校生バイヤー誕生!! (石巻市)

<http://kokoropress.blogspot.jp/2016/01/1.html>

「東北の復興・地域おこしを担う人材を育て、アントレプレナーシップを育成しよう」と、石巻地域の高校生20名の有志がバイヤーとなり、実際に石巻・女川の魅力ある商品の仕入れから販売までを手掛けるプログラムが進行中です。



2016年1月18日 月曜日掲載

2016年1月1日の情景 ようはい ～松島湾「初日の出 遙拝船」(松島町)

<http://kokoropress.blogspot.jp/2016/01/201611.html>

津波で大打撃を受けた松島湾の観光遊覧船業界。ボランティアや避難していた観光客までもがガレキ撤去などに参加してくれたおかげで、早期の復活を果たしました。今年の元旦にも多くの乗客を載せて「初日の出 遙拝船」が出航しました。



「みやぎ被災者生活支援ガイドブック」を発行しました

震災により被災された方々の生活再建に係る各種支援制度の概要と、その問い合わせ先を掲載した「みやぎ被災者生活支援ガイドブック(平成28年1月版)」を発行しました。

ガイドブックは、応急仮設住宅にお住まいの方などに順次お届けします。また、県や市町村の窓口等で配布する他、県ホームページでもご覧いただけますので、どうぞ活用ください。



問 県震災復興推進課
☎022-211-2408

URL: <http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/guidebook.html>

マイナンバーの利用が開始されました

平成28年1月から、税の申告や福祉分野の給付手続きの一部などでマイナンバーの利用が開始されました。窓口などではマイナンバーの記載とともに、「通知カード」と免許証などによる本人確認が行われます。

まだ「通知カード」を受け取っていない方は、お住まいの市町村へご相談ください。また、希望者は、申請によりマイナンバーと同時に本人確認に利用できる「個人番号カード」を当面の間無料で取得することができます。

通知カードや個人番号カードについてご不明な点があれば、下記までお問い合わせください。

問 「マイナンバー総合フリーダイヤル」
☎0120-95-0178 (無料)
「県市町村課」 ☎022-211-2333



第3回みやぎ地域復興ミーティングを開催します

震災から5年が経過して、これからのみやぎを支えていくために住民自身の手による地域づくりが必要になってきています。

このミーティングでは、県内外各地で住民参画により住民自らが望む地域づくりを行っている事例の発表を受けて、「みやぎの人がみやぎを支える時代」の地域づくりについて、参加者の皆さんとともに考えます。

【概要】

日 時	平成28年3月16日(水) 13:30~16:40
会 場	宮城県東北歴史博物館
内 容	<p>【講演】</p> <p>「自分たちのまちは自分たちで創る」(仮) 馬袋 真紀氏 (兵庫県朝来市市長公室総合政策課/ 朝来市余布土時事協議会)</p> <p>【事例発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人 わたりグリーンベルトプロジェクト ・筆甫地区復興連絡協議会
申込みについて	FAX、電話またはインターネットで、平成28年3月11日(金)までお申し込み下さい。詳しくは下記宛てお問い合わせ願います。

問 一般社団法人 みやぎ連携復興センター
TEL: 022-748-4550
FAX: 022-748-4552
URL: <http://www.renpuku.org/>

➤ 復興 イベント情報

マリナル女川おさかな市場 あんこう祭り(女川町)

コラーゲンが豊富で、美肌効果バツグンの「あんこう」。女川港に水揚げされた「あんこう」を格安販売いたします。当日は、おさかな市場特製あんこう汁の振る舞い(無料)やほたて焼き、蒸し牡蠣の販売もあります。

日 平成28年2月13日(土)~14日(日)
両日とも10:00~15:00

所 マリナル女川おさかな市場
問 マリナル女川事業協同組合
☎0225-54-4714

志津川湾牡蠣わかめまつり福興市(南三陸町)

今回のテーマは、今が旬の南三陸産「牡蠣」と「わかめ」。蒸し牡蠣の格安販売や、しゃぶしゃぶで大人気の生わかめの詰め放題を開催する予定。飲食ブースでは、牡蠣、わかめを使ったメニューを多数販売します。

日 平成28年2月28日(日) 9:00~14:00(予定)
所 ベイサイドアリーナ特設会場(予定)
問 南三陸町福興市実行委員会事務局
☎090-7077-2550

凡例 日 日時、期間 所 場所、会場 問 問い合わせ

“東北復興支援”「秩父宮記念スポーツ博物館巡回展—2020年東京オリンピック・パラリンピックがやってくる—」(多賀城市)

国立競技場の改築にともない閉館中の秩父宮記念スポーツ博物館が、東北歴史博物館を会場に巡回展を行います。1964年東京オリンピックを中心に、メダルやユニフォーム、聖火台の実物大模型など、過去のオリンピックに関する資料を多数展示します。羽生結弦選手や荒川静香選手、福原愛選手をはじめ宮城県ゆかりのオリンピック選手の衣裳や競技用具も勢揃いします。

日 開催中~平成28年3月13日(日)
9:30~17:00

休館日: 毎週月曜日(祝休日の場合はその翌平日)

所 東北歴史博物館
問 東北歴史博物館
☎022-368-0106

イベントの日程・内容などは変更される場合がありますので、お出かけ前に、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

みやぎ復興プレス 第45号

【発行日】平成28年2月1日 【発行】宮城県震災復興本部(事務局:震災復興推進課)

電話: 022-211-2443 e-mail: fukusuif1@pref.miyagi.jp

宮城県ホームページ「震災復興推進課」 [URL http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/fukusui/](http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/fukusui/)

「震災・復興」 [URI http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/](http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/)

